

Cisco TelePresence DX70、DX80 ユーザ ガイド

D1510415 ユーザ ガイド

Cisco TelePresence DX70、DX80

作成日: 2016 年 12 月 (CE 8.3)

All contents © 2010-2016

Cisco Systems, Inc. All rights reserved.





目次

このユーザ ガイドの内容

はじめに

Cisco DX70 の概要	4
Cisco DX80 の概要	5

ビデオ通話

連絡先リストから発信する	7
[連絡先 (Contacts)] リストのエントリを編集して発信する	8
名前、電話番号、またはアドレスを使用して発信する	9
着信	10
通話中に別の通話に応答する	11
通話の切断	12
通話を保留にする/保留中の通話を再開する	13
対応中の通話を転送する	14
帯域を変更する	15
応答不可を有効化する	16
通話中にキーパッドを表示する	17
既存の通話に参加者を追加する	18

コンテンツの共有

通話中にプレゼンテーションを開始/停止する	20
通話中にプレゼンテーション レイアウトを変更する	21

予定された会議

予定された会議に参加する	23
--------------------	----

連絡先

[お気に入り (Favorites)]、[発着信履歴 (Recents)]、 [ディレクトリ (Directory)]	25
通話中に [お気に入り (Favorite)] に追加する	26
非通話時に [お気に入り (Favorite)] に追加する	27

カメラ操作

自画面 PiP の移動	29
遠端カメラ制御	30

設定

設定の概要	32
-------------	----

目次の各行はすべてアクティブなハイパーリンクになっており、対応する項目に移動できます。

サイドバーのアイコンをクリックして章を移動することもできます。

注: このユーザ ガイドで説明する機能の一部はオプションです。システムによっては該当しない場合もあります。

3



はじめに

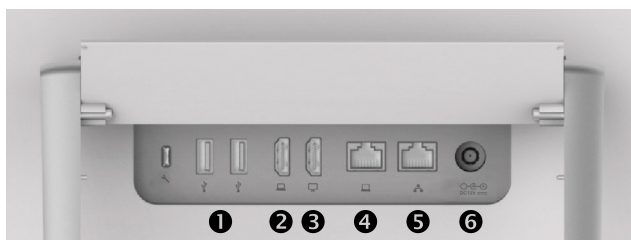


Cisco DX70 の概要

PC モニタとして使用します。 HDMI ケーブルを使用して、PC の HDMI 端子に接続します（下図参照）。

画面をタップするだけで、PC モニタとビデオ画面を切り替えることができます。

着信コールは、応答不可を有効にしていない限り、PC モードかビデオ モードかを問わず、通常通り表示されます（詳細は「[応答不可を有効化する](#)」、16 ページを参照）。



- ① USB ポート
- ② HDMI ソケット PC
- ③ HDMI ソケット外部モニタ（不使用）
- ④ LAN 拡張接続。PC の LAN をこの端子に接続することで、Cisco DX70 と PC で共通の LAN 接続を共有できます
- ⑤ LAN 接続
- ⑥ 電源ソケット



- ① プライバシー シャッター付きカメラ。反時計回りに回すとシャッターが閉じ、時計回りに回すとシャッターが開きます
- ② マイク ミュート ボタン、スピーカー 音量コントロール
- ③ スピーカー
- ④ SD カード スロット、ヘッドセット用コネクタ、USB 用コネクタ
- ⑤ 電源オン/オフ スイッチ
- ⑥ マイク

DX70 はミニジャック タイプのヘッドセットの他に、USB ヘッドセットもサポートします。USB ヘッドセットの詳細については、次のページを参照してください。

このユーザ ガイドについて

このユーザ ガイドは、DX70 および DX80 の両方に適用されます。これらの製品のディスプレイはサイズが異なりますが、サイズ以外の点では、画面に表示される画像は同じものです。

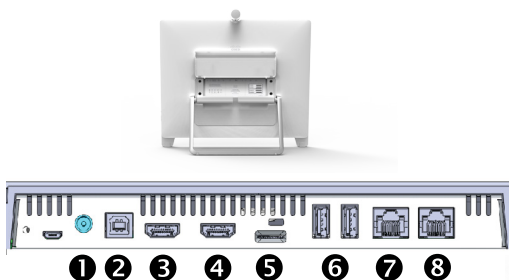
本ガイドで使用されるスクリーンショットは、DX80 の図に挿入されています。

Cisco DX80 の概要

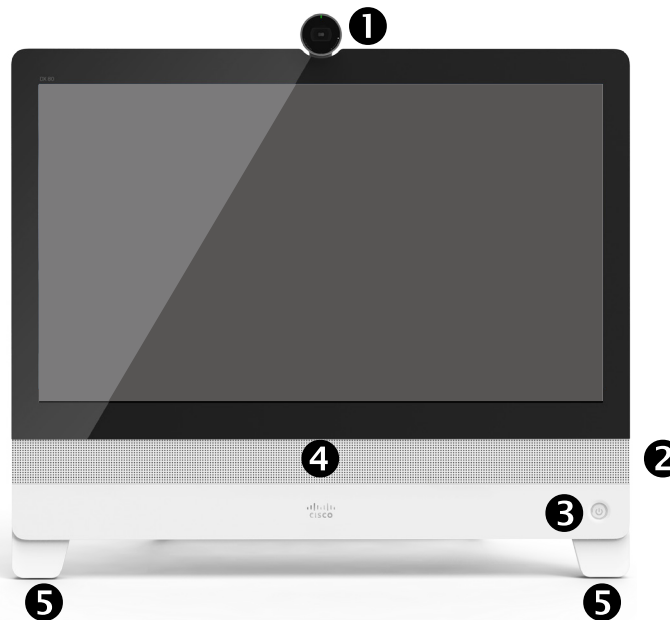
PC モニタとして使用します。 HDMI ケーブルを使用して、PC の HDMI 端子に接続します（下図参照）。

画面をタップするだけで、PC モニタとビデオ画面を切り替えることができます。

着信コールは、応答不可を有効にしている限り、PC モードかビデオ モードかを問わず、通常通り表示されます（詳細は「[応答不可を有効化する](#)」、16 ページを参照）。



- ① 電源ソケット
- ② USB によるコンピュータ接続
- ③ HDMI によるコンピュータ接続
- ④ HDMI 外部モニタ接続（不使用）
- ⑤ SD カード スロット、ケンジントン ロック
- ⑥ USB ポート
- ⑦ LAN 拡張接続。コンピュータの LAN をこの端子に接続することで、Cisco DX80 とコンピュータで共通の LAN 接続を共有できます
- ⑧ LAN 接続



- ① プライバシー シャッター付きカメラ。反時計回りに回すとシャッターが閉じ、時計回りに回すとシャッターが開きます
- ② マイク ミュート ボタン、スピーカー音量コントロール、USB ソケット（ユニット右側）
- ③ 電源オン/オフ スイッチ
- ④ スピーカー
- ⑤ 各脚内のマイク

DX80 と USB ヘッドセット

DX 80 は、USB 有線音声デバイス用の標準プロトコルを実装しています。

メーカーは、（HID プロトコルと呼ばれる）標準を独自に実装できます。

そのため、同じメーカー製でもモデルによって動作が異なる場合があります。すべてのヘッドセットとハンドセットの動作を保証することはできません。

CE 8.3 では、有線ヘッドセットとドングルを使用して動作するヘッドセットのみをテストしました。Bluetooth ワイヤレス ヘッドセットはサポートされないことに注意してください。

このヘッドセットのリストはすべてを網羅したものではありません。他にも多くのヘッドセットが動作します。Jabra、Plantronics、Sennheiser では独自にテストを実施し、DX80 をサポートする自社製ヘッドセットのリストを提供しているため、そちらも参照してください。

シスコによりテスト済みのヘッドセットは次のとおりです。

- Jabra Evolve 40
- Jabra Evolve 65
- Jabra Pro 9450
- Jabra Pro 9470
- Sennheiser MB Pro 2

このユーザ ガイドについて

このユーザ ガイドは、DX70 および DX80 の両方に適用されます。これらの製品のディスプレイはサイズが異なりますが、サイズ以外の点では、画面に表示される画像は同じものです。

本ガイドで使用されるスクリーンショットは、DX80 の図に挿入されています。



ビデオ通話



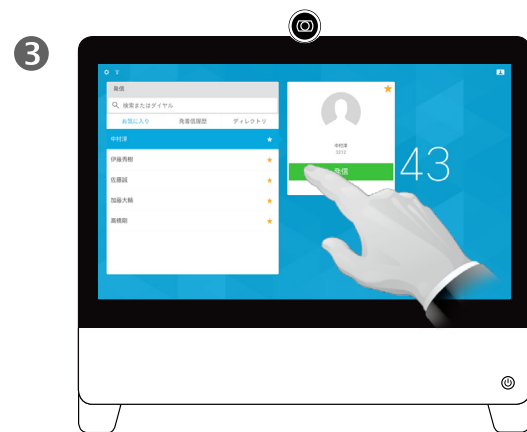
連絡先リストから発信する



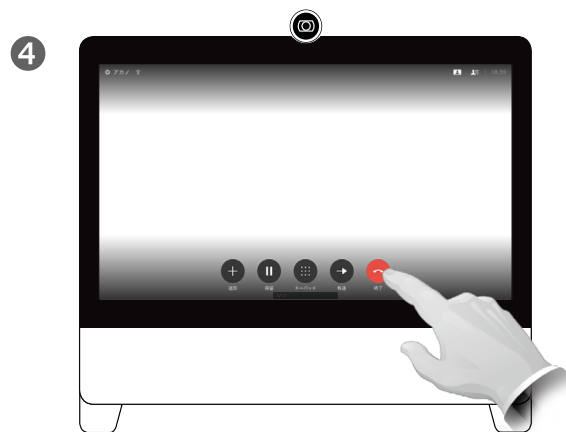
[発信 (Call)] ボタンをタップします。



特定のリスト ([お気に入り (Favorites)], [ディレクトリ (Directory)], [発信履歴 (Recents)]) で通話相手を検索するには、そのリストをタップし、下へスクロールして相手のエントリを探します。



そのエントリをタップすると、緑色の [発信 (Call)] ボタンが表示されます。



これで発信が行われます。通話を終了するには、赤色の [終了 (End)] アイコンをタップします。

連絡先のリストについて

連絡先リストは、次の 3 つの部分で構成されています。

[お気に入り (Favorites)]。これらの連絡先は自分で設定します。通常は、頻繁に通話する相手や、すばやく簡単に連絡を取りたい相手を指定します。

[ディレクトリ (Directory)]。は通常、ビデオ サポート チームがシステムにインストールした社内ディレクトリです。

[発信履歴 (Recents)]。は、発信、受信、不在着信のリストです。

次のオプションが適用されます。

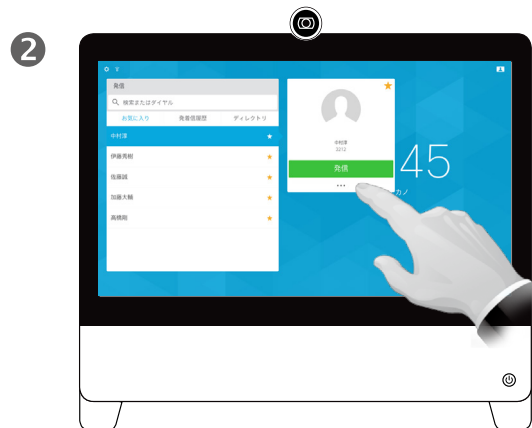
- 名前、番号、または IP アドレスを入力できます。ここでは、すべてのリストから検索されます。
- [お気に入り (Favorites)] のリストにエントリを追加したり、通話前にエントリを編集したり、帯域を変更したり、エントリを [発信履歴 (Recents)] から削除したりすることができます。

[連絡先 (Contacts)] リストのエントリを編集して発信する

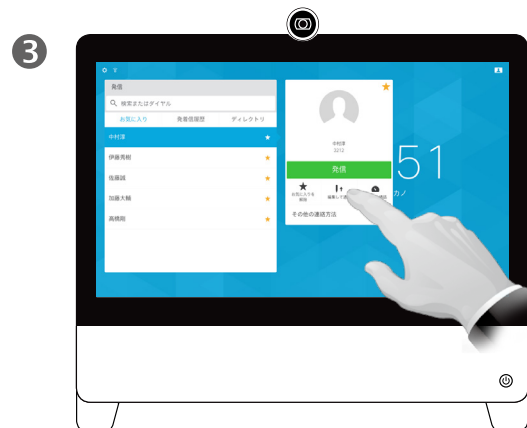
エントリの編集について



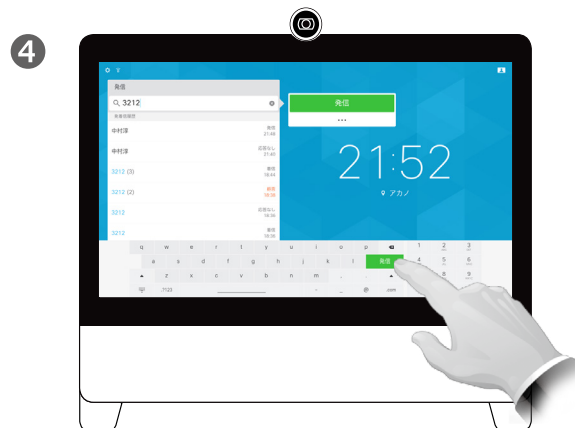
発信する前に、編集するエントリを見つけます。そのエントリをタップします。[発信 (Call)] メニューが表示されます。



緑色の [発信 (Call)] ボタンのすぐ下にある [その他 (More)] (⋮) アイコンをタップします。



[編集して通話 (Edit and Call)] をタップします。



キーボードを使って編集し、緑色の [発信 (Call)] ボタンのどちらかをタップして発信します。

[連絡先 (Contacts)] リストに入る方法については、前ページを参照してください。

発信する前に、[連絡先 (Contact)] リストのいずれかのエントリを編集する必要があります。たとえば、正しく発信するために、プレフィックスやサフィックスを追加するか、またはエントリ自体を変更する必要があるかもしれません。

名前、電話番号、またはアドレスを使用して発信する

発信について

連絡先のリストに載っていない相手に発信するには、タッチパッドの仮想キーボードを使用して名前、アドレス、または番号を入力します。

以前に通話したことがある相手は、(リストをクリアするまで) [発着信履歴 (Recents)] リストに表示されるため、そのいずれも [お気に入り (Favorites)] リストに転送できます。これについては、「連絡先」セクションで説明しています。

内線番号や暗証番号を入力する場合など、通話中に数字の入力が必要になることがあります。

この場合に必要なキーパッドを呼び出すには、[トーン信号 (Touch Tones)] (このボタンは、発信するとすぐに表示されます) をタップします。



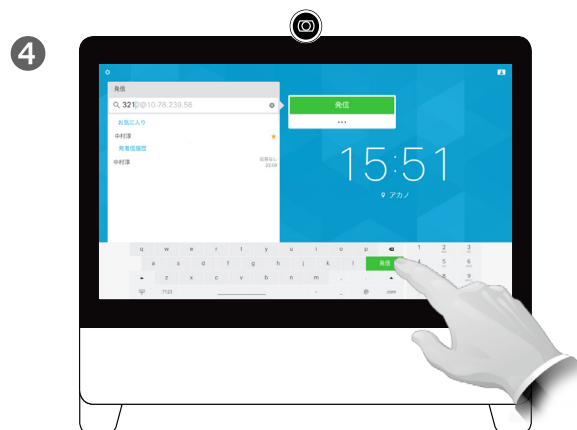
[発信 (Call)] ボタンをタップします。



[検索またはダイヤル (Search or Dial)] フィールドをタップします。この操作を行うと、キーボードが表示されます。



名前、番号、またはアドレスを入力します。入力内容に合わせて、一致する可能性のあるものや候補が表示されます。正確に一致するものがリストに表示されたら、タップします。表示されない場合は入力を続けます。



通話先を入力し終えるか見つけたら、緑色の [発信 (Call)] ボタンのどちらかをタップして発信します。

着信 着信

1



着信コールに [応答 (Answer)] するか [拒否 (Decline)] するかに応じてタップします。

2



ビデオ インフラストラクチャによっては、複数の着信通話を受信できます。これらをすべて現在の通話に追加するか、すべて拒否するかを選択できます。

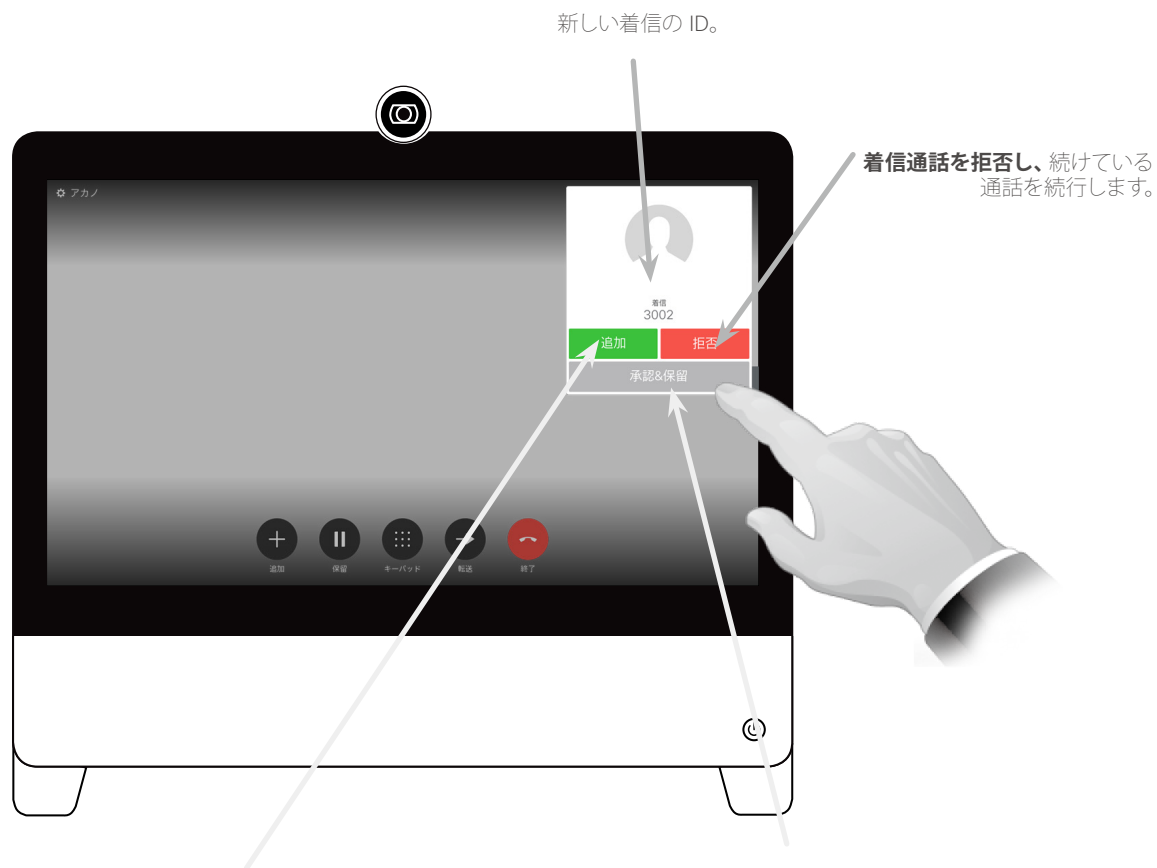
着信があった場合

- 着信があった場合は、通話を許可、拒否、または無視できます。
- 通話を拒否した場合、ビジーであるという情報が発信者に送信されます。
- 通話を無視する場合、発信者にとっては不在状態 (電話を取らなかった) と同じになります。
- ビデオ インフラストラクチャによっては、左下の図で示すように複数の着信通話を受信できる場合があります。必要に応じて、貴社のビデオ サポート チームにお問い合わせください。



着信

通話中に別の通話に応答する



オプションについて

特定の状況下では、通話中に別の着信を受け入れることができます。

終了 通話の切断



通話を切断するには、[終了 (End)] をタップします。

切断について

通話中に [終了 (End)] をタップすると、通話から切断されます。2 者間通話では、これで通話が終了します。



保留

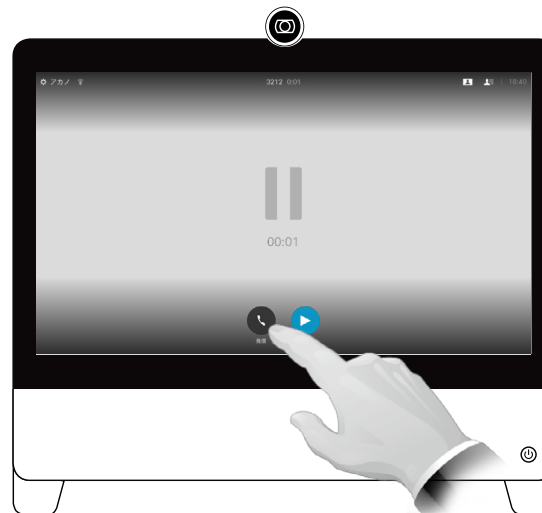
通話を保留にする/保留中の通話を再開する

1



通話状態であるとして、[保留 (Hold)] をタップします。

2

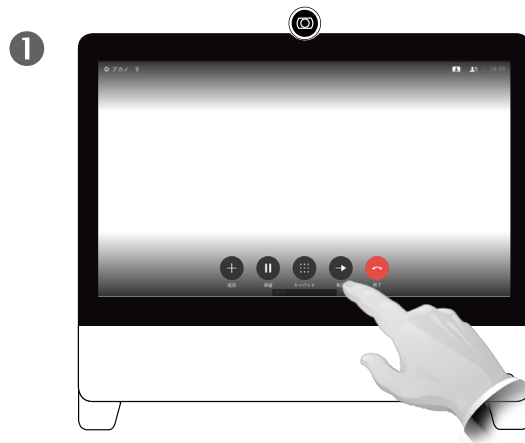


[再開 (Resume)] をタップして、通話状態にあった相手に戻ります (元の操作に戻ります)。

保留について

通常、相手を保留にする操作は、他の人に転送する場合の最初のステップとして行うものですが、打診が必要な場合や、ビデオ送信の停止などを含むミュートの代わりとしても使用できます。

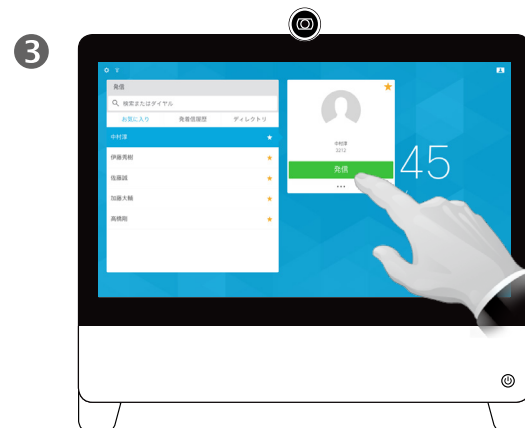
対応中の通話を転送する



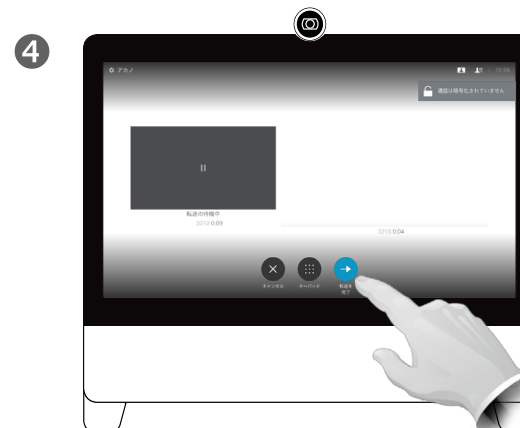
1 [転送 (Transfer)] ボタンをタップします。この操作で、現在のコールが保留になります。



2 通常の方法で、発信先を探します。



3 緑色の [発信 (Call)] ボタンをタップします。発信先の相手と話して、転送しても構わないか確認します。転送される側は、保留のままになっています。



4 [転送完了 (Complete Transfer)] をタップします。

転送について

対応中の通話を別の人に転送することができます。転送する場合は常に打診をします。つまり、実際に通話を転送する前に、転送先の相手と話することができます。

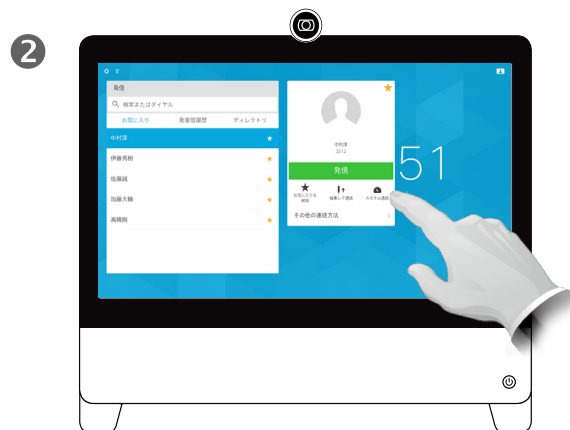


帯域

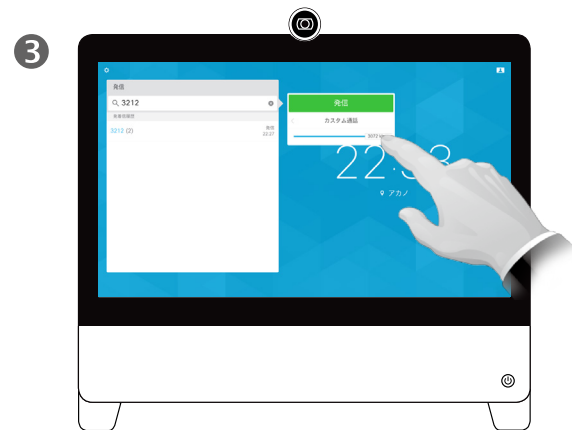
帯域を変更する



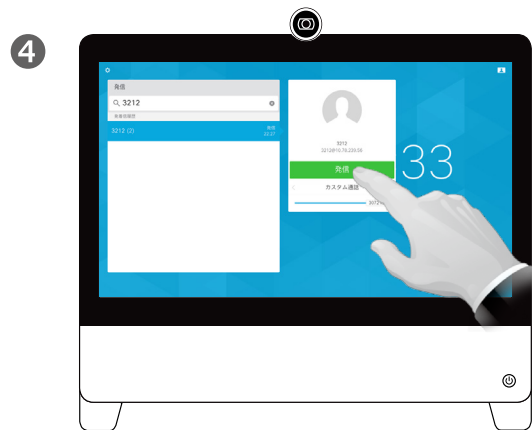
1 [発信 (Call)] ボタンをタップして、帯域を変更するエントリを特定します。このエントリをタップすると、[発信 (Call)] メニューが表示されます。それから、緑色の [発信 (Call)] ボタンの下にある [その他 (More)] (*** アイコン) をタップします。



2 [カスタム発信 (Custom call)] をタップします。



3 必要な設定までスライダを移動します。



4 緑色の [発信 (Call)] ボタンをタップして発信します。

帯域について

「帯域」とは、通話に割り当てられている帯域幅を示すために使われる用語で、単位は Kbps (キロビット/秒) です。

帯域が大きくなるほど品質が向上しますが、帯域幅使用量も増えます。

システムでは、デフォルトの帯域が設定されています。これは、[管理者設定 (Administrator Settings)] の一環としてビデオ サポート チームが設定します (パスワードで保護)。

この設定を一時的に変更する理由について説明します。多くの場合、帯域を一時的に変更するのは、システムと接続が実際にサポートする帯域よりも大きい帯域で通話しようとするときに、ビデオ コールが反応しなくならないようにするためです。

通話中に帯域を変更することはできませんが、左記のように発信の直前なら変更できます。



利用状態

応答不可を有効化する



図のように左上隅をタップします。



[応答不可 (Do not disturb)] をタップして、この機能を有効化します。もう一度タップするとオフになります。

応答不可について

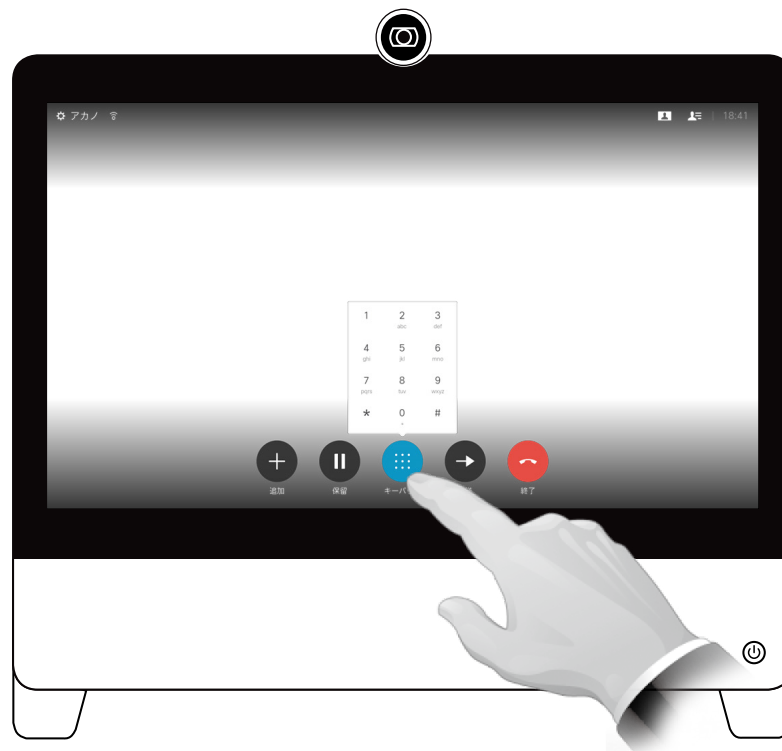
システムでは、着信に応答しないように設定できます。ただし、こちらからは必要時にいつでも発信できます。

ビデオ サポート チームが、この機能のタイムアウトを設定している場合があります。タイムアウト後は、通常のように着信に応答できるようになります。デフォルトのタイムアウト設定は 60 分です。



内線番号と暗証番号の追加

通話中にキーパッドを表示する



通話中に [トーン信号 (Touch Tones)] をタップすると、
ダイヤルパッドが呼び出されます。

通話中のキーパッドの使用

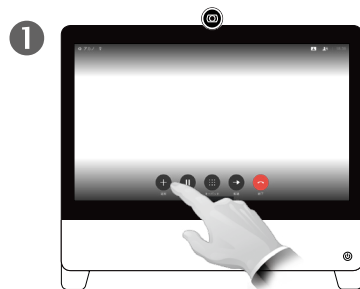
通話中、内線にかけるために、または何か (暗証番号など) を入力するためにダイヤル操作が要求されることがあります。

これを送信できるようにするには、タッチスクリーンにキーパッドを呼び出す必要があります。



参加者が複数いる電話会議

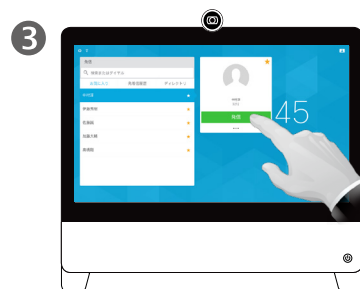
既存の通話に参加者を追加する



すでに通話状態であるとして、この通話は、自分または他の誰か（通話相手）が発信しています。[追加 (Add)] をタップします。



通常の方法で、発信先を探します。



通常の方法で発信します。発信する前にその通話の [通話設定 (Call settings)] を変更できます。詳細については、サイドバーを参照してください。



これで新しいコールが既存のコールに追加されます。

5 会議ができるようになりました。この手順は、ビデオ インフラストラクチャで可能な人数まで繰り返せます。

ビデオ会議について

ビデオ システム ネットワークには、複数の参加者とビデオ会議を開始する機能が備わっている場合があります。

ご使用のビデオ システムでサポートされている参加者の最大人数は、システム構成とビデオ インフラストラクチャによって決まります。ご不明な場合は、ビデオ サポート チームにお問い合わせください。

ビデオ会議を開始する場合は、各参加者に 1 人ずつ電話をかける必要があります。

会議を開始したユーザは、会議全体を終了することができます。他の参加者は、自分自身のみ会議から切断できます。

通話設定: 通話相手によっては、異なる帯域幅のビデオ システムを使用している場合があります。全参加者に対しては、各システムがサポートする帯域幅に合わせるよう強いる必要はありません。システムで利用できる最高の品質を全員に提供するために、[帯域 (Call rate)] はすべての参加者が個別に設定できます。[「帯域を変更する」、15 ページ](#)を参照してください。



コンテンツの共有



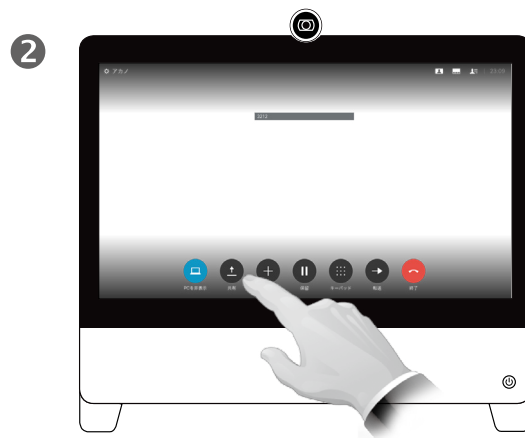


コンテンツの共有

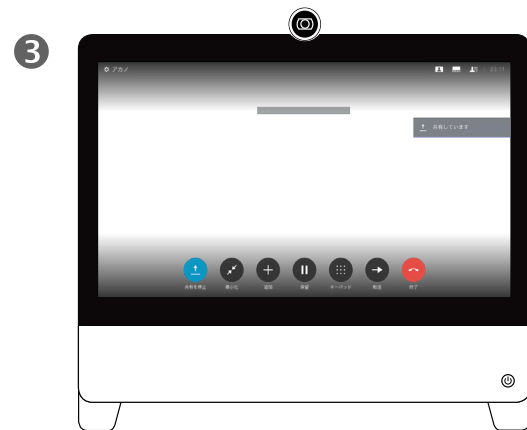
通話中にプレゼンテーションを開始/停止する



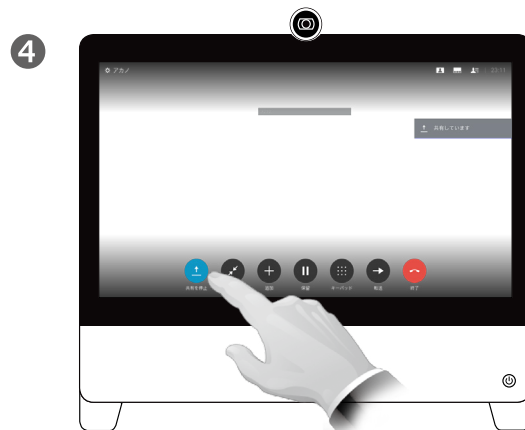
通話中、ソースを接続して、スイッチがオンになっていることを確認します。[PC の表示 (Show PC)] をタップして、自分の PC の画面を DX70/80 上にローカルに表示します。この操作を行って画面に表示されているものは、他の参加者には表示されていません。



他の参加者と自分の PC の画面を共有したくない場合は、[PC を非表示にする (Hide PC)] をタップすると元の状態に戻ります。コンテンツを共有する場合は、図のように [共有 (Share)] をタップします。



PC の画面のコンテンツが他の参加者と共有されます。



共有を停止するには、図のように [共有を中止 (Stop Sharing)] をタップします。

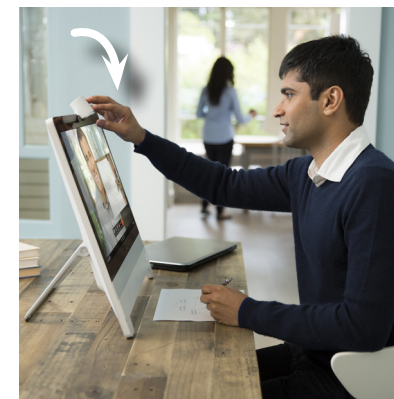
コンテンツの共有について

お使いのビデオ システムは、ビデオ コールやビデオ会議でプレゼンテーションを表示する機能をサポートしています。

プレゼンテーション中に画面のレイアウトを変更できます。詳細は次のページを参照してください。

ヒント お使いのシステム カメラはドキュメント カメラとしても使用できます。図のようにカメラを傾けて、システムの前に置かれているテーブル上のドキュメントなどの対象物が映るようにします。

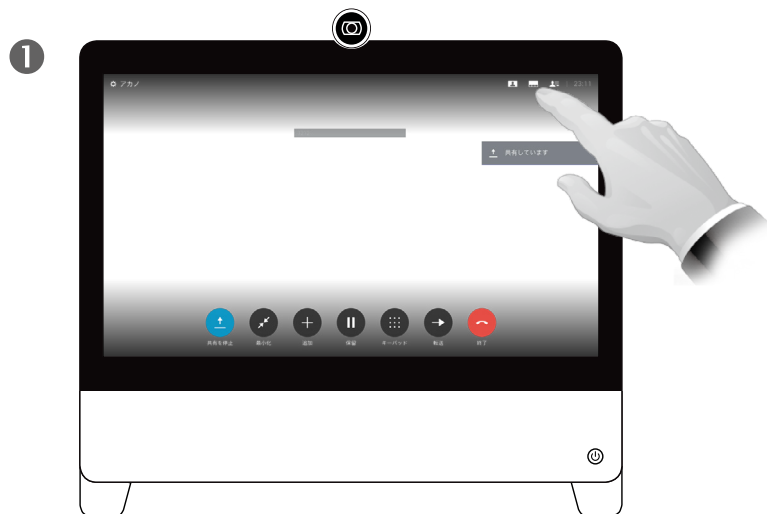
カメラはユーザの操作を検出し、自動的に画像を垂直方向に切り替えます。その結果、イメージが遠端でも期待どおりに表示されます。





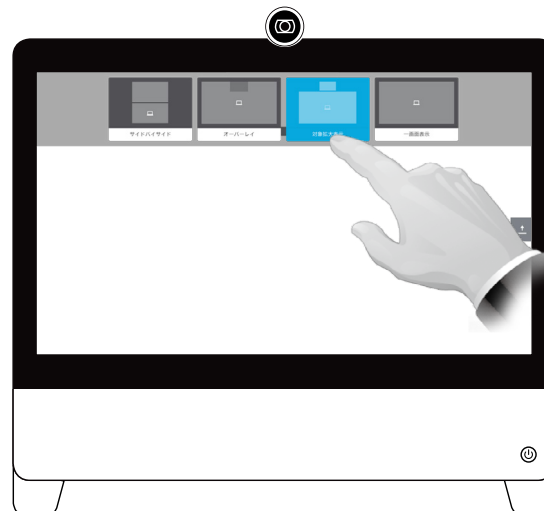
コンテンツの共有

通話中にプレゼンテーション レイアウトを変更する



図のように、[レイアウト (Layout)] をタップして、レイアウトのオプションを呼び出します。

2
タップして好きなレイアウトを選択します。



プレゼンテーション レイアウトについて

プレゼンテーション中に画面のレイアウトを変更できます。選択できるオプションには、プレゼンターの表示/非表示、プレゼンターを PiP (ピクチャインピクチャ) で表示する、PoP (ピクチャ アウトサイド ピクチャ) で表示する、があります。

ご使用のシステムで選択できるレイアウト オプションは、ここに示すオプションと異なる場合がありますが、表示されるレイアウトを選択すれば切り替えられます。



予定された
会議





予定された会議

予定された会議に参加する



会議への参加

ビデオ会議をスケジュールすることができる管理システムに、ビデオ システムを接続することができます。左の図のように、予定されている会議が表示されます。

[参加 (Join)] をタップすると、会議の参加者になることができます。



連絡先





連絡先

[お気に入り (Favorites)]、[発着信履歴 (Recents)]、
[ディレクトリ (Directory)]



連絡先リストについて

連絡先リストは、[ディレクトリ (Directory)]、[発着信履歴 (Recents)]、[お気に入り (Favorites)] の 3 つの部分で構成されています。

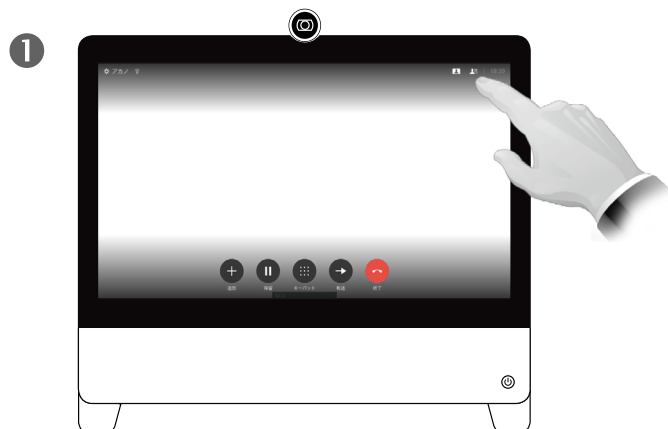
[ディレクトリ (Directory)] は、社内電話帳としての役割を果たします。このディレクトリは編集できません。ただし、エントリを [お気に入り (Favorites)] のリストにコピーした上で編集することはできます。

フォルダをタップしてそのコンテンツを表示します。必要に応じて、ディレクトリをスクロールしてフォルダやフォルダ内のエントリを探します。

会社のディレクトリを検索する場合は、ディレクトリの現在のフォルダとそのサブフォルダのみが検索されます。1 つ上のレベルに移動するには、[戻る (Back)] をタップします。検索を社内ディレクトリ全体に適用する場合は、検索を開始する前に、フォルダを入力 (タップ) しないでください。

ディレクトリからお気に入りのリストにコピーしたエントリが、その後ディレクトリ内で更新されることがあります。この更新はお気に入りのリストに反映されません。この場合は、お気に入りのリストで、該当のエントリを手動で更新する必要があります。

通話中に [お気に入り (Favorite)] に追加する



通話中に、図のように、右上隅の【参加者 (Participants)】アイコンをタップして、参加者リストを呼び出します。



【お気に入り (Favorites)】に追加する参加者をタップします。小さなメニューが表示され、参加者をドロップ (参加を終了) することも、その参加者を【お気に入り (Favorite)】リストに追加することもできます。



【お気に入り (Favorite)】をタップします。

お気に入りについて

【お気に入り (Favorites)】は、頻繁に通話する、または簡単にアクセスしたい相手を含む連絡先リストです。

【お気に入り (Favorites)】は、[発着信履歴 (Recents)] または [ディレクトリ (Directory)] リストから選択するか、手動で入力できます。

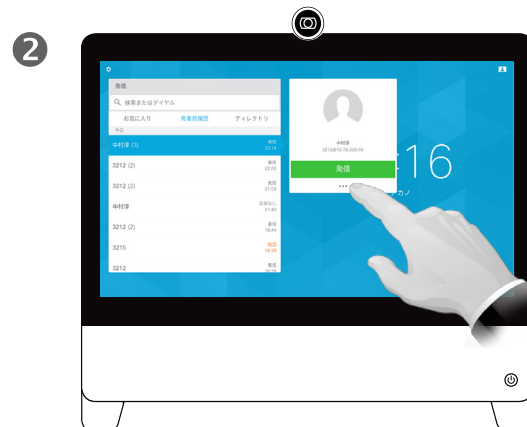


連絡先

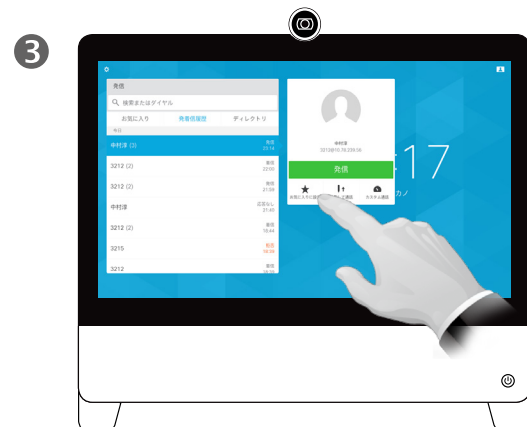
非通話時に [お気に入り (Favorite)] に追加する



図のように、非通話時に [発信 (Call)] (非表示) をタップして、[連絡先 (Contacts)] リストを呼び出します。[発信履歴 (Recents)] または [ディレクトリ (Directory)] をタップして、[お気に入り (Favorites)] に追加するエントリを探します。



[お気に入り (Favorites)] に追加する参加者をタップします。緑色の [発信 (Call)] ボタンの下にある [その他 (More)] (⋮) アイコンをタップします。



[お気に入りとしてマーク (Mark as Favorite)] をタップします。エントリが [お気に入り (Favorite)] に追加されます。メニュー以外の場所をタップして終了します。

- 4 [お気に入り (Favorites)] リストからエントリを削除するには、[連絡先 (Contacts)] 中の [お気に入り (Favorites)] に移動して、この手順を繰り返します。
- [お気に入りとしてマーク (Mark as Favorite)] ボタンが、[お気に入りのマークを解除する (Unmark as Favorite)] になっています。

この機能について

[お気に入り (Favorites)] は、頻繁に通話する、または簡単にアクセスしたい相手を含む連絡先リストです。

[お気に入り (Favorites)] は、[発信履歴 (Recents)] または [ディレクトリ (Directory)] リストから選択するか、手動で入力できます。

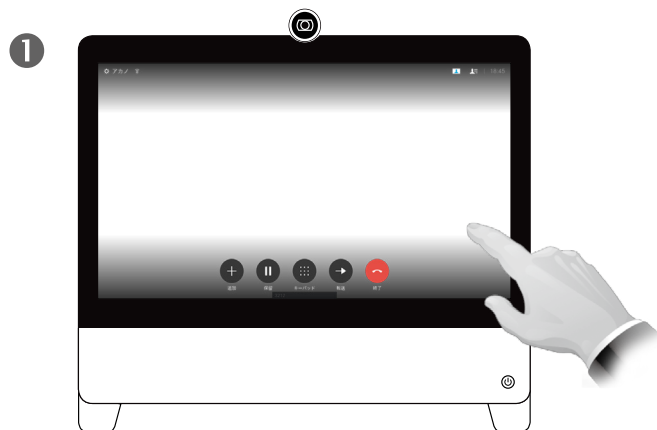
手動で入力して [お気に入り (Favorites)] リストに追加するには、名前かアドレスを [検索またはダイヤル (Search or Dial)] フィールドに入力します。詳細については、[「名前、電話番号、またはアドレスを使用して発信する」](#)、[9 ページ](#) を参照してください。



カメラ操作



自画面 PiP の移動



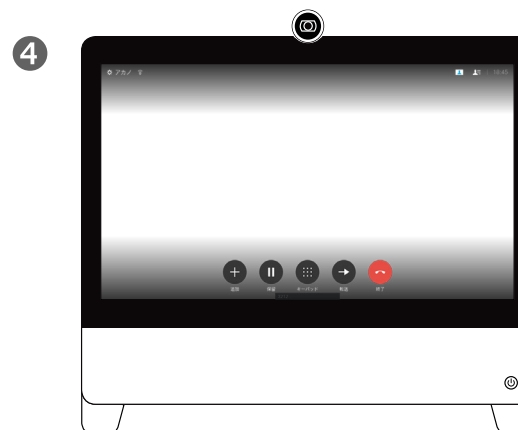
自画面の画像をタップしたままにします。



自画面の画像を配置できる別の場所を探します。画像をタップしたままにします。



画像を新しい位置にドラッグします。この例では、左上隅にドラッグしています。



画面から指を離して、画像をリリースします。これで、自画面の画像が新しい位置に配置されます。

自画面を移動する理由

自画面には、ビデオ システムから他者に表示される内容が映し出されます。通常は、目的どおりの映像が他者に表示されるかどうかを確認します。

自画面は、PiP (ピクチャ イン ピクチャ) として表示されます。

会議中に、自画面を有効にしたい場合があります。たとえば、自分が画面に映り続けていることを確認するために使用できます。

自画面の現在位置によっては、画面の重要な部分を自画面が覆っているかもしれません。このような場合、自画面を移動できます。



カメラ

遠端カメラ制御



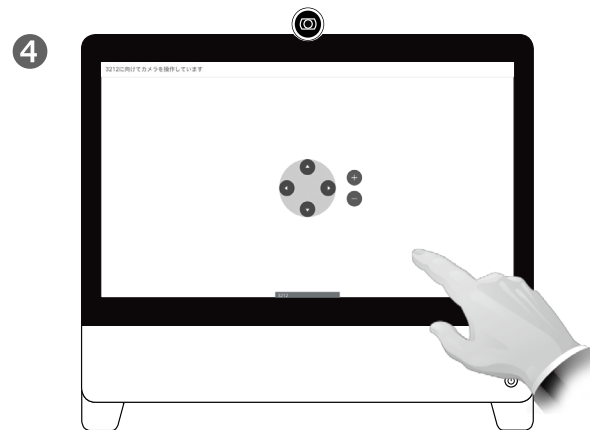
図のようにタップして、参加者のリストを呼び出します。



カメラを制御したい参加者をタップします。制御できないカメラの場合、制御オプションは表示されません。



選択した参加者の [カメラ (Camera)] をタップします。



好みに合わせてカメラを調節します。カメラ制御以外の任意の場所をタップすると、遠端カメラ制御は終了します。

カメラ操作について

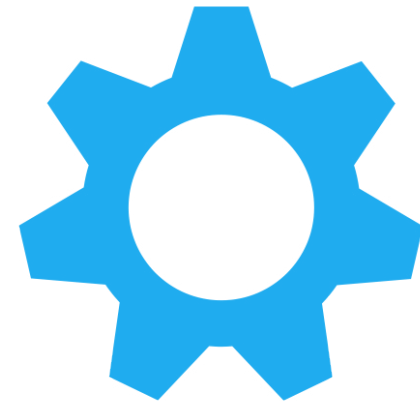
他の参加者のビデオ システムに、リモート コントロールできるカメラが含まれているビデオ コールに参加する場合があります。

このような場合、自分のビデオ システムからそれらのカメラを制御できます。これは遠端カメラ制御 (FECC) と呼ばれます。

遠端システムでカメラ トラッキングが有効化されている場合 (カメラが話者を追跡表示している場合)、FECC オプションは提供されません。



設定





設定

設定の概要



設定について

このメニューにアクセスするには、左上隅の小さなアイコンをタップしてから、[システム情報 (System Information)] をタップします。お使いの DX70/DX80 の状態の概要が表示されます。この画面の [設定 (Settings)] をタップすると、さらに 1 レベル深い設定に移動することもできます。

次の設定にアクセスできます。

- 言語の設定
- タイム ゾーンの設定
- WiFi 設定などのネットワーク接続の設定
- サービス アクティベーション設定
- 工場出荷時の状態へのリセット
- 拡張ロギング

©2017 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Cisco、Cisco Systems、およびCisco Systemsロゴは、Cisco Systems, Inc.またはその関連会社の米国およびその他の一定の国における登録商標または商標です。
本書類またはウェブサイトに掲載されているその他の商標はそれぞれの権利者の財産です。
「パートナー」または「partner」という用語の使用はCiscoと他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(1502R)
この資料の記載内容は2017年5月現在のものです。
この資料に記載された仕様は予告なく変更する場合があります。



シスコシステムズ合同会社

〒107 - 6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー
<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先